

各地代協等の総会

東京代協



雨宮会長

東京代協は5月15日、東京・千代田区の損保会館で平成30年度通常総会を開いた。総会では平成29年度事業概況報告や平成30年度事業計画、役員任期満了に伴う改選についてなど7つの付議事項が審議され、いずれも可決承認された。

平成29年度事業概況報告では、説明にあたった同代協の磯利二会長が「平成29年度は支部の活性化を軸に取り組んできた」と総括。「各支部長の好リードにより、工夫を凝らした支部の取り組みがみられ、セミナーなどに参加した代理店からも本業に生かせる情報が得られたという声もいただいた。こうした活動の積み重ねが損害保険大学課程の受講者の増加および5年連続の会員増進につながっているのだと思う」と会員代理店に向けて感謝の意を表した。

平成30年度事業計画では、同じく磯利二会長が「昨年同様、支部の活性化と支部活動の充実を基本に、代理店の存在価値の向上および東京代協全体の存在価値の認知・向上に取

り組んでいく」と説明。また「各保険会社は国内の営業の現場において、支店支社の廃止統合、要員の再配置、地域型社員・パート社員の積極活用、代理店完結型の事務処理へのシフトや業務の見直しなど、より一層の効率化、収益重視に向けて構造改革を強化してきている」と述べ、こうした業界動向に対応するためにも代理店間での情報交換や人脈の構築の必要性が一層、高まると強調した。

事業計画ではこのほか、東京代協が今年で設立75周年の節目を迎えることや、直近5年間で70店の新入会員が加わり新たな顔ぶれが増えたことなどから、12月に75周年記念事業を行うこと

が確認された。

全付議事項の審議終了後、総会を一時中断して第1回理事会が開かれ、役員および各支部長、各委員長が選任された。会長には磯利二氏が再任となった。総会終了後は記念講演が行われ、武蔵野学院大学・大学院教授で人間性科学研究所所長の澤口俊之氏が「レジスマンが真に伸ばすべき脳力とは何か」をテーマに講演した。

年度通常総会を開催した。役員改選を含めた6つの議案を付議し、全て承認を得た。会長として同代協を4年にわたりけん引してきた栗田秀美会長は退任し、新会長に小口泰伸氏が就任。新たな体制で新年度がスタートすることとなった。

総会開催に先立ちあいさつに立った栗田会長は「お客さまに信頼され、支持される千葉代協を目指してきた」と就任からの4年間を振り返った。その上で「今後も改正保険業法に基づいた代協活動を推進していきたいと強く願っている」と述べ、一層の協力を求めた。

来賓紹介、あいさつ等へ続き、総会では6件の議案を付議。29年度事業報告の中では損害保険トータルプランナー取得を推

千葉代協



栗田会長

千葉代協は5月17日、幕張勤労市民プラザ(千葉市美浜区)で、平成30年度通常総会を開催した。役員改選を含めた6つの議案を付議し、全て承認を得た。会長として同代協を4年にわたりけん引してきた栗田秀美会長は退任し、新会長に小口泰伸氏が就任。新たな体制で新年度がスタートすることとなった。

総会開催に先立ちあいさつに立った栗田会長は「お客さまに信頼され、支持される千葉代協を目指してきた」と就任からの4年間を振り返った。その上で「今後も改正保険業法に基づいた代協活動を推進していきたいと強く願っている」と述べ、一層の協力を求めた。

来賓紹介、あいさつ等へ続き、総会では6件の議案を付議。29年度事業報告の中では損害保険トータルプランナー取得を推

進した結果、2年連続で全国達成率ナンバーワンとなったこと、会員は純増となったものの目標には達しなかったなどを報告した。また、栗田会長が30年度事業計画案について説明。26年度から取り組んできた改革が成果を上げているが、さらなる組織率の改善と支部の活性化に注力していきたいと強調した。その上で組織率57・6%の大阪代協の取り組みを紹介しながら、「会員増強は組織を大きくすることだけが目的ではない。保険業界の情報を会員に正しく伝え、対応策や考え方を議論し共有していくことが代理店業界全体の健全な発展に寄与できると確信している」と力強く述べた。役員改選では、理事・監事が承認され、臨時の役員会において小口氏の新会長就任が決定した。議案す

神奈川代協



雨宮会長

神奈川代協は5月16日、横浜市の東京海上日動横浜中央支店で第10回通常総会を開いた。総会では平成29年度事業報告や平成30年度事業計画、理事・監事改選についてなど7つの付議事項が審

議され、いずれも可決承認された。

総会に先立ち挨拶した同代協の雨宮豊会長は「協の意義について、65年前に設立された神奈川代協は、(今日に至るまで)プロの代理店のためだけに存在し機能して発展してきた。私たちがとってこつた場合は代協以外に存在しない」と話すなど、代協が保険代理店にとつての貴重な場であることを強調。また、代協に入会することで得

られるものは高品質な情報とヒントだとし、そのことを代協未入会の代理店にも呼びかけていきたいと述べた。

来賓からは、損保協会南関東支部神奈川損保会会長小林健司氏と日本代協副会長の小平高義氏が挨拶。損保協会と代理店のあり方について、小林氏は「改正保険業法では一層のお客様視点での説明が求められるようになり、顧客本位の業務運営に関する原則ではお客様の最善の利益が求められる。こうしたこと

をふまえ、損保協会では保険代理店の皆さんのバックアップに努められるような有益な取り組みを推進していきたい」と述べた。

日本代協の小平氏は「地域のリスクマネージャーとしての取り組み」と「代協の持つ2つの価値」に地域でのボランティア活動や環境問題への取り組みといった組織的なCSR活動などとし、対内的には最新の業界動向やベストプラクティス事例の提供、充実した募集人の教育制度といった個々の代理店が抱える課題を

解決するための取り組みを進めていることなどとし、「顧客本位の業務運営の原則を実践するための教育プログラム」については、現在構築中の日本代協独自の教育プログラムとして経営者マネジメント力向上研修やコミュニケーション能力向上研修などがあり、これらの取り組みを通じて代理店経営における組織力強化を図ってみたいと話した。

総会付議事項のうち、専務理事に藤原治郎氏が新任で就き、支部長は全6支部のうち4支部長が新任となった。会長は雨宮氏が再任となった。